

目的

地表面に降り積もった放射性物質は、その後、土壌や河川等への移行が起こる。
 今後の放射性物質の蓄積量の変化を予測するためには、
 ①土壌、②地下水、③河川水 における放射性物質の移行状況 および
 樹木や土壌からの巻き上げ量モニタリングが必要である。

そのため、本チームでは、

- ・様々な土地利用の地域での放射性核種の存在量の測定
- ・森林を含む様々な土地利用からの放射性核種の再飛散量の測定
- ・森林内にタワーを建て、樹冠・幹・枝・林床に付着している放射性核種のモニタリング（ポータブルゲルマを用いる）

を継続的に行う。



- ・水の移動に伴う、放射性核種の土壌水・地下水・渓流水・河川水への移行調査
- ・様々な土地利用での土壌区画からの土砂および放射性核種の河川への移行
- ・水田にからの浮遊土砂、放射性核種の河川への移行
- ・河川・湖沼での浮遊土砂・流量・濁度の連続モニタリングにより河川からの放射性核種の海への移行量を測定する。

Expected Outcome

- 汚染物質の滞留状況や汚染状況について適切なマップが提示される。
- 水の放射性物質の超高精度測定、ポータブルゲルマによる核種同定、森林・土壌移行に関するデータは広域土壌マッピングのためのAir-Borne センサー校正、今後の放射性核種の移行プロセスの解明のために利用される。
- 放射性物質の土壌への移行、河川への移行、土壌から大気への移行に関わる実態把握により、今後の移行過程の予測のための基礎データ・関係式、モデル研究のための初期値・パラメータが提供される。